

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271600557
法人名	社会福祉法人 出雲市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム せせらぎの家
所在地 (電話番号)	出雲市佐田町一窪田118 (電話) 0853-85-8500

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年1月15日	評価確定日	平成20年1月31日

## 【情報提供票より】(20年 1月 4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.05 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有( ) 円	無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山、川、田、畑等自然に囲まれながら、四季折々の表情を身近に感じられる環境に立地するこのホームは、とんど祭りや子供会など地域行事へ積極的に参加したり、また逆に、毎月定期的にホームが体操教室を開催し、近隣住民をホームへ招く機会を設けるなど、地域住民との触れ合いの場を多く設け、地域に根付いたホームを作る取り組みがなされている。管理者、職員ともに、利用者の思いを第一とした支援がなされ、調理や食後の後片付け、共用スペースで談笑することをはじめ、利用者それぞれが、思い思いに過ごしているとともに、職員も利用者個々の残存能力を活かし、自立支援にこだわった支援がなされている面が多くみられた。次年度から運営体制の変更されることもあり、職員の異動など、利用者に対する影響が懸念されるが、運営者、管理者ともに、ホームの特性を理解しており、影響を最小限にとどめようと取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、入居者の希望に合わせた入浴支援及び入居者の状態に合わせた職員確保が改善課題としてあげられている。入浴支援については、前回調査後、実施時間について協議され夜間入浴を実施するよう改善されていたものの、職員体制の関係もあり、現在は再度時間帯を制約している状況である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者をはじめとし、職員全員が評価を実施する意義を理解しており、事業所の質をより良くしていく姿勢が見られる。またこれまでの外部評価の改善を求められた項目に対しては、早急に協議を行うなど、ホームの更なる質の向上を念頭に置き、日々のケアを行うなど積極的に取り組む姿勢が伺える。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表や民生委員、コミュニティーセンター長や自治会長、行政等をメンバーとし、定期的に開催している。現状報告や問題点の検討、今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。また、ホームとしても、この会議で出た意見を真摯に受け止め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等が来訪の際には声がけを行い、遠慮なく意見を言ってもらえる体制を作っている。家族等から出された意見、苦情等は職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) とんど祭り、子供会、婦人会等地域の行事に積極的に参加している。また、毎月1回、ホームの主催で体操教室を開催しており、地域住民に参加してもらうことで、より地域とホームとの連携が密になるよう取り組みがなされている。
	⑥	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体として地域への貢献を含めた理念が定められており、ホーム独自としても「地域の中で安心して住める居場所・・・」と地域との関わりを重要視した理念が定められている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は、職員会議で協議され制定されたものであり、職員間の共有がなされている。また、管理者、職員共に、この理念を基として、日々の業務にあたっており、より地域に溶け込もうと取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして、地域との交流を重要視しており、地域行事であるとんど祭りや婦人会への参加、ホーム主催の体操教室やイベント開催など、積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の際に指摘された事項については改善するよう検討し、管理者、職員ともに、評価の意義を十分に理解し、これをホームの質の向上に活用しようとする姿勢が見られる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館長や民生委員、家族代表、行政等をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催している。会議では、現況報告や問題点の検討等が行われ、また、自治会等からの意見も多く出されており、この会議をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所担当者へ度々訪問し、協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的なホーム便りの発行をはじめ、家族の来訪の際の報告、電話連絡など、それぞれの状況に合わせた報告がなされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見をはじめ、地域住民からの意見も多く寄せられている。ホームとしても、これら意見を運営に反映させようと取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の異動が多く、ホームの職員が固定化されていない状況であり、これが利用者へのダメージとなっていることは否めない。</p>	○	<p>法人で複数の事業所を運営していることから、職員のスキルアップの点等、定期的な異動は理解できなくもない。ただ職員の異動によりホーム利用者への影響が発生していることなどふまえ、法人としてグループホームについて再考され、改善されることが望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は定期的に参加しているものの、外部研修については、職員体制の関係もあり、積極的な取り組みができていない。</p>	○	<p>法人内研修は積極的に取り組まれているものの、他のホームの実情把握や、意識改革など、職員の質の向上という点からも、外部研修への積極的な取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内や市内の事業者連絡会への参加をはじめ、独自のネットワークも構築し、研修や情報交換を行うなど、ホームの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問や、事業所の見学など、馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は支援を受ける一方ではなく、人生の先輩として職員へ話しをしたり、一緒に作業を行うなど、共に支え合い過ごしている場面が多く見られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の希望や意向を聞きだすよう努めている。本人の意向把握が困難な場合には、職員の都合にならないよう注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に計画が作成されている。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しをはじめ、状況に応じて随時見直しがされている。また、毎月開催される職員ミーティングでも、各利用者の状況が確認され、これを見直しに活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続してかかりつけ医としている。また、主治医等とも密に連絡をとり、緊急対応をはじめ、往診依頼など関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについては、本人、家族、主治医等と十分に協議を行い、それぞれの方針を決定し支援している。また、職員への周知も図られるなど、関係者全体でのチームケアとして対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に利用者の誇りや尊厳について話し合い、職員の意識向上を図っている。また、入居者それぞれの生活歴や性格等の把握がなされ、個々を尊重した声掛け等を行うなど対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の能力や、意向の把握がなされ、その能力を活かし役割を見出すなど、それぞれに対応した支援がなされている。併せて、できるだけ本人の意に沿う支援を行うよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者ともに食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべての食事を楽しまし支援が行われている。また、準備や後片付けも入居者とともに行うよう取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の評価で改善事項として挙げられていたこともあり、入浴実施の時間帯について協議され、夜間入浴を実施していた。しかし、職員体制の関係で、再び時間について制約をせざるを得ない状況となっているなど、職員側の都合で決められている部分もある。	○	夜間入浴を実施した際の入居者の反応を考えると、やはり現状ではニーズに即した対応とは言い難い。職員体制も含め、早急に整備され、対応されることが望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、調理や食事の後片付け、ホームの掃除などそれぞれの力を発揮できるよう役割が見出されており、現に能力が向上した入居者もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者に対してはそれに合わせ対応している。また、単独でホーム近辺を散歩する利用者もいるなど、利用者の意思を尊重し支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。夜間については、防犯上の理由により施錠されているが、家族来訪時の対応などは支障がないよう対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	コミュニティーセンター、消防署と連携を図り、地域住民と合同で定期的に訓練を行っている。先の水害の際にも、地域住民がすぐに駆けつけるなど、協力体制が構築されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は必要に応じてチェックし把握している。また、利用者それぞれの咀嚼能力に合わせ食事形態も柔軟に対応されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みもなく、テレビの音や日光など、利用者には不快感を与えないよう調節している。また、共有空間にある和室には使い込まれた品が置かれ、生活感のある空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスや棚の持ち込みをはじめ、床面の変更など、それぞれの希望や状況に合わせた居室作りがなされている。		